

2024年7-9月期の運用成績

厚生労働大臣から寄託された公的年金の積立金の管理・運営を行なう、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)は、2024年9月末現在、248兆円の資金を運用しています。今月初に発表された2024年7-9月期の運用成績は、約9.1兆円のマイナス(期間収益率は▲3.57%)でした。

7-9月期は、日銀の利上げや米景気悪化懸念などを背景に8月に一時円高・株安が進み、厳しい投資環境となりましたが、GPIFの運用成果の内訳を見ると、外国株式、外国債券、国内株式はマイナスだったものの、国内債券はプラスとなっており、全体としては分散投資が奏功してマイナスを抑制したといえます。

なお、GPIFが運用する年金積立金は、公的年金制度の一部です。年金制度の持続性を高めるため、将来の少子高齢化を見据えて、現役世代の人口が多いうちに、保険料の一部を蓄えてきたものです。年金積立金の運用は、将来の年金受給者や現役世代のために長期的観点で行なわれているといえます。年金給付の財源は現在、その年の保険料収入と国庫負担で9割程度が賄われており、年金積立金の充当は1割程度となっています。そのため、短期的な市場変動に伴う運用成果は、年金給付に影響を与えるものではありません。

ありません。

GPIF改革から10年。累積収益額は121兆円

一般に、値動きが異なる資産で分散投資を行なうことで、価格変動リスクを抑制しつつ、長期的には安定的な収益が期待できますが、GPIFや前身の年金資金運用基金は、10年前まで国内債券に偏重した運用を行なっていました。2014年10月に運用方針などの改革が実施され、株式比率を高めるなどリスクを取りつつも国際分散投資を進めた結果、改革から10年間(2014年10月末～2024年10月末)で累積収益は121兆円と、大きく積み上がりました。

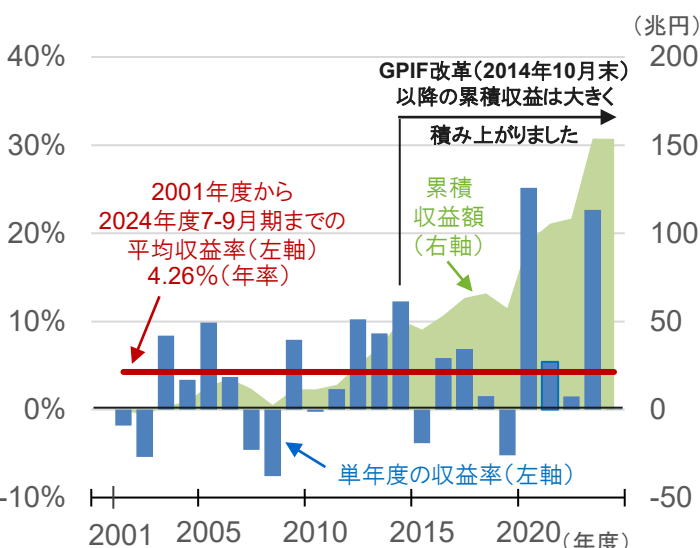
GPIFの基本ポートフォリオに注目

GPIFは、5年毎に策定する中期計画に基づき、長期的な基本ポートフォリオを定めて運用を行なっています。2025年3月を目途に基本ポートフォリオの見直しが行なわれるとみられ、GPIFの資産配分変更に伴う巨額な資金の流出入が市場動向に影響するため、市場関係者の間では注目が高まっています。

運用成果に目が向きがちですが、GPIFの運用方針ともいえる基本ポートフォリオにも注目してみると、ご自身の中長期での資産形成の参考になるかもしれません。

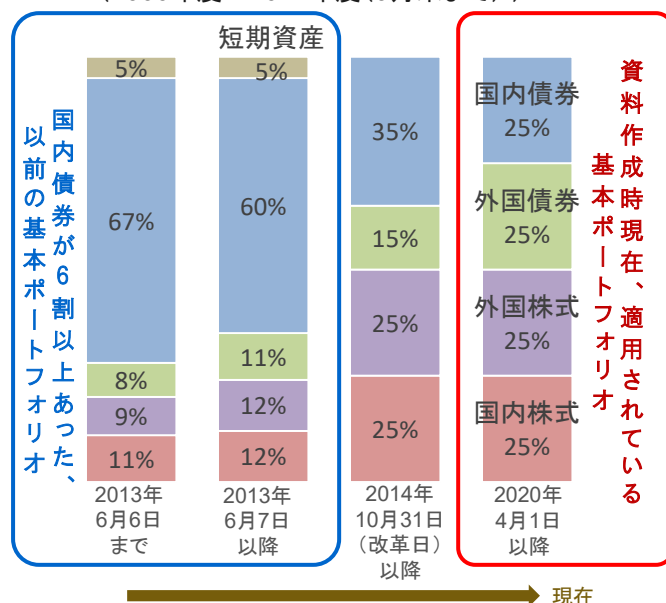
GPIFの運用実績(収益率)の推移

(2001年度～2024年度*) *7-9月期までの値



GPIFの基本ポートフォリオ(概略)の変遷

(2006年度～2024年度(9月末まで))



●GPIFの公表データをもとに日興アセットマネジメントが作成
●上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

※上記は概略です。各比率に乖離許容幅が設けられていることやオルタナティブ投資が一部可能であることなど、その他の規定があることにご留意ください。

<ご留意いただきたい点>

■この資料は具体的な商品をご説明するものではないため詳細を記載しておりませんが、元本保証のないリスク性商品のご購入やご売却、保有にあたっては、手数料等をご負担いただきます。■リスク性商品には、各種相場環境等の変動により、投資した資産の価値が投資元本を割り込むなどのリスクがあります。■リスク性商品中途解約する場合は、ご購入時の条件が適用されず不利益となる場合があります。■くわしくは、三井住友銀行本支店等の各商品の説明書等を必ずご覧ください。



株式会社三井住友銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会